今月の用語

隣に伝えたい新たな言葉と概念

【タウオパチー】

英 tauopathy

【用語の解説】

タウオパチーとは，タウ蛋白が中枢神経系に異常に蓄積することが発症に関与する神経変性疾患，または，その病理所見をさす用語である．具体的な疾患としてアルツハイマー型認知症（Alzheimer disease；AD），進行性核上性麻痺（progressive suprabulbar palsy；PSP），大脳皮質基底核変性症（corticobasal degeneration；CBD），ピック病，神経原線維型老年認知症，嗜銀顆粒性認知症などが含まれる．タウ蛋白は分子量５万の蛋白で，微小管の重合促進や安定化に機能することで，細胞の形態維持，物資移送などの役割を果たしている．タウオパチーではそのタウ蛋白がリン酸化やユビキチン化された状態で神経細胞やグリア細胞に疾患特異的な構造物を形成する．AD やピック病ではその構造物は神経細胞内に神経原線維や球状のピック球として観察される．一方，CBD や PSP ではグリア細胞の突起への蓄積が顕著で，CBD ではアストロサイトに astrocytic plaque として，PSP ではアストロサイトには房状に蓄積した tuft-shaped astrocyte，オリゴデンドロサイトには glial coiled body と呼ばれる構造体が観察できる．こうした構造体の局在や分布の広がりがおのおのの疾患の臨床症状と密接に関係していることが知られている．

（東京医療センター　内科医長　安富大祐）

本誌199p に記載